

薬学 生の 広場

Plaza of Pharmacy student

薬学生向け企画案内・報告

▶がん治療での薬剤師の貢献を目指して

宮崎生協病院 薬剤科 大田原哲哉



外来化学療法室・ 無菌製剤処理室の 開設

5月より外来化学療法室及び無菌製剤処理室が開設となりました。

治療室が、今までの1床から2床(ベッド1床・リクライニングシート1床)へと、増床となりました。早速、新しい部屋で治療を受けた方から「部屋がきれいですね」「静かです。落ち着



がん化学療法の様子

いて治療が受けられます」と喜びの声や評価を頂きました。

当院で行う化学療法のがん種は、主に大腸がん・胃がん・肺がんです。がん化学療法では、がん種別に「レジメン」という抗がん剤の使用法(投与量・スケジュール)があります。院内で採用しているレジメンは当院のホームページにて公開していますので、参考にしてください。

その「レジメン」の管理は化学療法委員会(事務局は薬剤師)でおこなっています。また、委員会では医師・看護師・栄養師が参加する患者カンファレンス、化学療法におけるマニュアル整備等(抗がん剤被曝対策や安全に投与するための基準作り)にも取り組んでいます。チーム医療で多職種連携をし、治療や患者指導に繋がっています。



薬剤師の仕事

病院薬剤師にとって、がん治療の貢献は腕の見せ所です。がん化学療法では、「正確な知識」「適切な判断力」「患者さんへのサポート」が求められます。「正確な知識」とは、各がん種のレジメンの内容の理解です。抗がん剤の投与量はもちろん副作用の頻度や注意すべき副作用について対処法・予防法等を熟知する必要があります。「適切な判断力」とは、化学療法を受ける患者の状況(現治療の腫瘍に対する効果・これまでの治療歴)を鑑み、主治医とディスカッションし、患者にとっての適切な方法(レジメ

ンや治療補助薬)を提案します。

「患者へのサポート」とは、副作用のみならず精神面も含めたサポートを行うことです。治療が副作用等でうまく進まないとき、抗がん剤の効果が得られず増大し落ち込んでいるとき、そのような時に患者に寄り添うように心がけています。

当院でのがん治療はリニューアルしました。新規抗がん剤や免疫チェックポイント阻害薬の登場などがん治療の進歩が著しいですが、そのような中、活躍できるような薬剤師育成・チーム作りを心がけていきます。

▶▶ 薬学奨学生募集 ◀◀

〈奨学金制度の概要〉

支給額 月額10万円

支給期間 奨学生の決定から卒業まで

※返済免除の規定

奨学金の受給期間(1年未満は1年に繰り上げ)と同一期間、宮崎医療生協の院所に勤務した者は、奨学金の返済義務を免除する。

〈奨学生制度の目的〉

卒業後、宮崎医療生協に参加する意志を持った薬学生の皆さんに、勉学の経済的な援助を行うため。

■お問い合わせ先

お気軽にお問い合わせください。
宮崎生協病院 薬剤科 大田原
Tel 0985-24-6877